



かいた病院だより

WONCA/JPCAの学術大会が5月15～19日に京都で開催されました。

JPCA（日本プライマリ・ケア連合学会）とは、当院で中心となって働く「家庭医」を育てている学会で、毎年一度学術大会が開かれています。WONCAとはその国際版で、アジア太平洋部会が同時期に日本で開催されました。当院から合計12名の医師が、日々の診療で得られた知見、研究、活動の成果を報告・発表、またシンポジウムの座長・パネリストを務めて参りました。

新しい知識・知恵と全国の家庭医の熱い医療への思いを京都土産として持って帰ってきましたので、皆さんに還元できるよう、日々の診療に生かしていきたいと思います。

家庭医 赤岩 喬



講演会「子どもの発育と病気について」

国の子育て応援事業である
ファミリーサポート事業は
「あったらいいな もう一つの家族」
というキャッチフレーズの元、地域の方々が
「おねがい会員」「まかせて会員」として
一緒に子育てをしている事業です。



私達は2019年6月7日、事業の一環として
行われている会員登録講習に講師として
参加しました。「子どもの発育と病気」と
いう題目で、年齢に応じた起こりやすい事故、
家庭内ですべき事故予防、発熱や嘔吐下痢の
対応についてお話ししました。その中でも異物
誤飲について詳しくお話し、赤ちゃんの人形を
使って誤飲した時の対応を実践しました。

家庭医 渡部 なつき



自動精算機を導入しました

2019年4月より、待ち時間の短縮と会計作業の精度向上の目的に「自動精算機」を導入する事となりました。

今回導入した自動精算機は、患者さんが使用するものではなく、会計スタッフが使用する装置です。これまでの会計作業では、間違い防止のための複数回の金額確認や手作業による会計作業などにより、長い会計の待ち時間やつり銭間違いなどで患者さんにご迷惑をおかけすることがありました。自動精算機導入により、今後は、会計待ち時間の短縮とつり銭間違いの減少が実現できます。

最近では、来院された患者様から「金額の表示が分かりやすくなったね」などのお声を頂いております。

今後もスタッフ一同、
患者さんの立場に立ち、心に
寄り添うあたたかい接遇を目標に
いっそう努力いたします。

医事課 宮本 恵実



フレイル予防 ～介護予防の観点から～

前回のおさらいです。介護予防とは「要介護状態の発生をできる限り防ぐ(遅らせる)こと、そして要介護状態にあってもその悪化をできる限り防ぐこと、さらには軽減を目指すこと」でした。

大きな病気や怪我がなければ急に介護が必要な状態になることはありません。

健康から「フレイル」という状態を経由して要介護状態となってしまう方が多いのが現状です。

今回はフレイルの解説とフレイルチェックです。まずはご自身の状態を確認してみましょう。

■「健康」と「要介護状態」の中間点

フレイルは、「ささいな衰え」から「生活に困る身体の衰え」の段階です。ささいな衰えは気づきにくく、“歳をとったせい”で済まらず、フレイルの兆候に気づくことが大切です。



■健康に戻る可能性のある段階

フレイルの兆候に気づいたら、できるだけ早く適切に対処することで、今より悪くならないように維持、そして改善へとつなげることが重要です。フレイルへの気づきが遅れば、改善できることも少なくなってしまいます。

■フレイルチェック

加齢による筋肉量の減少、筋力の低下、身体能力の低下した状態は、身体的特徴を示す病態として、フレイルの大きな要因のひとつと言われています。

指輪っかテスト

【測る時のポイント】

1 親指と人差し指で指輪っかをつくる

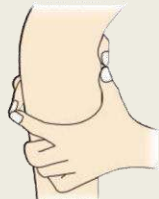


2 利き足ではない方のふくらはぎの最も太い部分を囲む

*ギュッと締め付けない!



3 指が届き、隙間ができた場合サルコペニアの可能性が高い



ふくらはぎの太さを測ることで、身体全体の筋肉量のおおよそを知ることができます。

「指輪っかテスト」で人差し指が届いて、隙間ができた場合は筋肉量が減少している可能性が高いといえます。

※フレイルに大きく関与する筋肉の変化は、早期の発見が重要です。

「指輪っかテスト」で、定期的(半年もしくは1年に1回)に変化を見ることが大切です。

低

サルコペニアの可能性

高

リハビリテーション部 理学療法士 高橋 遼

【診療担当表】※2019年7月16日現在

		月	火	水	木	金	土
総合診療科(午前)	初診	吉田 柴田 石松	西園 石松 徳島	金 後藤 徳島	中安 渡邊 桑原	茂木 桑原 徳島	当番制 (午前)
	再診 (予約)	安田 長谷川 桑原	吉田 長末 渡部 北野	茂木 松本 井上	金 赤岩 中邑 上野	井村 渡邊 木安 大杉(偶数月)	
総合診療科(午後)	初診	赤岩	吉永(堀之内) 渡邊	堀之内	安田	石松	
	再診(予約)	本田	-	本田	本田	-	
小児科	午前	家庭医	家庭医	家庭医	家庭医	家庭医	
	午後	赤岩	渡邊 近藤(月1)	堀之内	安田 一ノ瀬(要予約)	石松	
ワクチン (午後)		木安 (金)	-	-	吉田	-	
外科		家庭医	家庭医	家庭医	家庭医	家庭医	
予約外来	整形外科 (14:30-16:30)	-	非常勤医 ※紹介制	-	-	非常勤医 ※紹介制	
	内視鏡 (予約)	-	茂木 (上部のみ/午前)	-	-	茂木(午後) (第2:15:00~)	
	甲状腺 (第2水曜:午前)	-	-	萬代	-	-	
眼科(午後)		-	-	山中	-	-	
耳鼻咽喉科(第1・3・5) (9:00-12:00)		-	-	-	-	非常勤医	
禁煙外来		柴田 (午前)	-	-	吉田 (午後)	-	
婦人科(午後)		-	-	-	松岡 木安	-	

＊診療時間＊

- ・午前 8:30~11:30 (月~土)
- ・午後 14:00~16:30 (月~金)

＊休診＊

- ・土曜(午後) 日曜 祝日 年末年始

＊お問い合わせ＊

医療法人博愛会 穎田病院
〒820-1114
福岡県飯塚市口原1061番地1
TEL 09496-2-2131 (代表)

時事通信『熱中症について』

今回はこの時期気をつけなければならない病気、**熱中症** についてです。

熱中症は、高温多湿な環境に長くいる事で、体内の水分や電解質のバランスが崩れ、体温調節がうまくいかなくなった状態を指します。症状としては、初期だと筋肉のツリや筋肉の痙攣、倦怠感症状が出ます。症状が進んでしまうと意識が朦朧とし、最悪の場合命に関わる怖い病気です。

予防にはこまめな水分補給と適切な環境調整

（クーラー、扇風機の使用や通気性のいい衣服等）が大切です。

年齢を重ねていくにつれ、暑さや水分不足を感じにくくなったり、暑さに対する体の調整機能も落ちているので高齢の方は特に注意が必要です。

のどの渴きを感じていなくても、こまめに摂取するようにしましょう。

予防に気をつけ、症状が出現した際は、早めに病院を受診しましょう。

参考）熱中症診療ガイドライン2015

**熱中症
予防**



家庭医 桑原 宏輔

ワクチンシリーズ『麻しんについて』

日に日に暑くなる今日この頃みなさんバテずにお過ごしでしょうか。

夏休みを利用して海外からの旅行者や海外へ出かける人も増える季節です。そんなとき気を付けたいのが**麻しん**、いわゆる「**はしか**」と呼ばれているウイルス感染症です。なぜならワクチンの普及した現在の日本では、海外渡航者からの持ち込まれたウイルスがワクチン接種歴のない方に感染し発症する、と言われているからです。



この麻しんウイルスは感染力が脅威的かつ空気感染を起こすため近年の日本でも度々流行しニュースになります。例えば、ワクチン接種していない集団に1人インフルエンザ患者さんが紛れ込むと2人に感染させると言われていますが、これが麻しんだと15人にまでなると言われています。高熱が出て皮膚に紅い斑点のできる病気で、重症化すると肺炎や脳炎で亡くなることもあり注意が必要です。

日本では1歳と小学校入学前に計2回ワクチンを受けているはずですが。麻しんはワクチンで防げる・ワクチンでしか防げない感染症の1つです。きちんと2回受けているかもう一度母子手帳で確認してみましょう。大人もワクチン接種から時間が経っている場合は感染のリスクがあります。一度主治医と相談してみてもいいでしょうか。

家庭医 後藤 淳一



当院OB（金城先生）の大学教授就任



金城先生は2010年から2014年まで頤田病院に勤務され、家庭医療専門医を取得されました。診療の合間に研究活動にも尽力され、在宅医療の費用研究で日本の先駆けとなる論文を英文で発表されております。診療実績、研究実績に加え、その人柄も温厚で申し分なく、この度、「帝京大学医学部救急医学講座 総合診療ERセンター」の教授に就任されました。金城先生から地域の皆様への感謝のお言葉をいただきましたので、紹介いたします。

院長 本田 宜久



当院ご勤務時代の金城先生

頤田病院の職員、ご通院の皆様

頤田病院、飯塚頤田家庭医療プログラムで2010年から2014年まで勤務させていただいた金城謙太郎と申します。この度、2019年5月より、東京都板橋区の帝京大学医学部附属病院の救急医学講座総合診療科教授に赴任することになりましたので、ご報告申し上げます。

私は、本田院長先生、吉田先生、茂木先生らと2010年から2014年まで、外来・入院・在宅医療を担当しました。職員の皆様には優しい対応で御協働いただき、とても働きやすい職場だったと今でも思い出し、地域の皆様にも、私を家庭医療（総合診療）の医師として人間的にも成長させていただいたと感謝しています。今後も頤田病院で習得した学びを地域に還元させて頂きたいと思っております。最後になりましたが、今後の頤田病院の発展、皆様のご多幸とご健康をお祈り申し上げ、感謝の意とさせていただきます。

金城 謙太郎



2014年当院在宅医療センターにて



2014年当院医局にて



国際学会『WONCA』における発表報告

2019.5.15-5.18 WONCA in 京都

- ◆ 本田 宜久 「Role of Family Physician in Community Hospital in Asia ; Family physician in Community Hospitals in Japan ~One stop care service through Outpatient care, Inpatient Care and Home Care~」
- ◆ 吉田 伸 「Young Family Doctors Movement within Japan and Asia Pacific Region」
- ◆ 松本 朋樹 「Building your Future as a Family Physician through Mentorship : Steps for Junior Physicians」
- ◆ 渡邊 功 「The Current Situation and Issues of the Long-term Care Insurance in Korea」